

平成30年2月定例会 人材育成・文化・スポーツ振興特別委員会の概要

日時 平成30年3月8日(木) 開会 午前10時 1分
閉会 午前11時18分

場所 第1委員会室

出席委員 田村琢実委員長
飯塚俊彦副委員長
板橋智之委員、荒木裕介委員、新井一徳委員、宮崎栄治郎委員、野本陽一委員、
山本正乃委員、塩野正行委員、西山淳次委員、並木正年委員、柳下礼子委員

欠席委員 なし

説明者 [教育局]
小松弥生教育長、小島康雄副教育長、
柚木博教育総務部長、古川治夫県立学校部長、
松本浩市町村支援部長、小澤健史教育総務部副部長、
渡邊亮県立学校部副部長、佐藤裕之県立学校部副部長、
関口睦市町村支援部副部長、藤田栄二市町村支援部副部長、
古垣玲総務課長、岡部年男教育政策課長、清水匠財務課長、
高岡豊県立学校人事課長、羽田邦弘県立学校部参事兼高校教育指導課長、
加藤健次保健体育課長、金子功特別支援教育課長、
石井宏明小中学校人事課長、大根田頼尚義務教育指導課長、
橋本強家庭地域連携課長、芋川修市町村支援部参事兼生涯学習文化財課長
[県民生活部]
杉野勝也県民生活部副部長、横内ゆり文化振興課長
[福祉部]
大島健治障害者福祉推進課主幹

会議に付した事件

文化の振興について

板橋委員

- 1 埼玉県美術展覧会の出品料は3,000円であるとのことであり、一般応募出品者が2,930人であると約900万円が出品料としての収入となるが、資料にある予算額267万5千円は何に使用しているのか。
- 2 出品者数3,343人に対して入選率が約45%であるが、出品者は毎年どれぐらいの人が入れ替わるのか。また、何回か入選した場合その人は出品する資格が無くなり招待作家等の枠に入るのか、データがあればその内容について伺う。
- 3 下の方に写真があるが、作品は二段、三段に展示されている。すばらしい作品を見るときには、一点一点余裕を持って見たいと思う。展示スペースの問題もありこうした展示せざるを得ないのかと思うが、展示スペースと出品数との兼ね合いをどのように考えているのか。
- 4 川口に植木という伝統文化がある。埼玉県 WABI SABI 大祭典で盆栽を中心として実施しているのはいいが、川口の植木という視点について検討あるいは働き掛けを行ったのか伺う。

生涯学習文化財課長

- 1 委員御指摘のとおり、出品料がある。資料の予算額267万5千円は県からの補助金の額である。平成29年度の出品料は約1,200万円で、全体の予算額は約1,650万円である。県からの補助金267万5千円は、全体の収入に対して支出として運営職員の賃金、報償費及び広報の印刷製本費などに使われているが、267万5千円が何に使用されているかという具体的なものは出ない。
- 2 入選は出品した作品が展覧会に展示されることとしている。入賞は入選作品の中で賞が授与されるものとしており、69賞がある。出品者の入れ替わりの具体的な数字はない。
- 3 スペースに余裕があれば、見やすい形で展示したいところであるが、近代美術館の展示場のスペースと、展示する入選作品を少しでも増やしたいという考えとの兼ね合いで、現在のような形での展示となっている。今後については現在検討中であるが、会期を二回に分けて展示することによりスペースを確保できないかということなども考えていきたい。

文化振興課長

- 4 今年度は盆栽を中心に検討し、盆栽をカットしていくステージパフォーマンスや、外国の方に盆栽を植える体験をしていただくことを中心に実施した。このイベントは埼玉の魅力を発信していくもので、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会、ラグビーワールドカップ2019に向けて大きくしていきたいと考えている。埼玉の文化を紹介するということで幅広に考えていきたい。川口の植木について今年度は検討していなかったが、今後幅広に検討していきたい。

西山委員

- 1 下總皖一は、有名な曲を数多く作曲している。県内の学校において音楽の授業で童謡を教える際に、偉大な音楽家であることについて、どのような教え方をしているのか。

- 2 学校への出張講座「ミート・ザ・ミュージック」は、若手の音楽家を派遣し身近な距離で音楽を聴き体験する楽しみを提供するとても良い取組だと思うが、今後どのように取り組むのか。
- 3 彩の国さいたま芸術劇場は日本建築学会賞を受賞するなどとても文化的な価値がある。行われている公演はもちろんだが、建物自体もすばらしい。また、埼玉会館や近代美術館もすばらしい建物であるが、各施設は分散しており交通アクセスにも問題があると思う。例えば、さいたま市近辺の文化施設や盆栽公園等を巡回する「文化振興バス」のようなコミュニティバスを県が補助金を出して運行するなど、何か文化施設等を巡る取組を考えられないか伺う。

義務教育指導課長

- 1 小学校高学年の道徳の授業において、埼玉県の人材として取り上げている。また、音楽の授業では、全国で使われている共通教材に採用されている下總皖一作曲の『かくれんぼ』を教えている。

文化振興課長

- 2 この事業は埼玉県芸術文化振興財団がプロの音楽家を派遣するもので、市町村を通じ学校の希望を聞きながら実施している。今年度は6校で実施しており例年同様の規模である。引き続き市町村の希望などを聞きながら続けていきたいと考えている。
- 3 委員お話のとおり、彩の国さいたま芸術劇場は日本建築学会賞を受賞しており高い評価を得ている。また、埼玉会館は前川國男の設計で非常に歴史的価値も高いと言われている。県では以前、「埼玉モダンたてももの - きまぐれ散歩」という冊子で、埼玉県の特徴のある建築、モダン建築、建物について取りまとめている。現在はホームページなどで情報を公開し建物めぐりの楽しみなども提供している。実際に今すぐバスを運行することは困難であるが、少し研究させていただきたい。

西山委員

- 1 文化施設等を巡る取組は、何かアイデアがあると面白いと思う。是非研究をしていただきたい。(意見)
- 2 下總皖一を道徳の授業で取り上げることは大事なことだと思うが、音楽の授業で童謡を教える際に、地元の人だと教えるとより印象深いと思う。音楽の授業で教えることは難しいことなのか。

義務教育指導課長

- 2 数多くの童謡や市町村立学校の校歌を作曲されていることから、今後は、童謡や校歌を歌う場面で、作曲者が下總皖一であることを教えるよう指導していきたい。

野本委員

- 1 下總皖一が「日本近代音楽の基礎を作った」とは過大評価であり、一番の功績は教育者として埼玉師範学校で戦前戦後の埼玉県の音楽教育に多大な貢献をしたことである。本来は音楽教育者として大きな功績を遺したという方向での顕彰であろう。(意見)
- 2 下總皖一は、日本各地の学校の約2,000の校歌を作っており、加須市の利根川の側にある加須未来館に資料があり、北陸、東北の学校をはじめ各地の校歌を作っていることが分かる。彼の業績については、1990年代に発行された、さいたまグラフで特

集され全て掲載されている。さいたまグラフを収集しているか。

- 3 埼玉県民俗文化財の掘り起こしについては、昭和50年頃に小学唱歌が入る前の埼玉の童歌を教育局が収集しているはずである。童歌の現在の取扱い状況について伺う。
- 4 故蜷川幸雄氏には彩の国さいたま芸術劇場の名前を上げていただき、ありがたかったと思う。蜷川演劇は小劇場での演劇をルーツとしている。埼玉での活動は商業演劇に転換した後の演劇で、継承しているものは東宝劇場などで商業演劇として大成功した後の作品であり、商業演劇は東宝劇場などで上演する。蜷川レガシーの継承に取り組むのであれば、芸術劇場においては、上演する作品の幅をシェイクスピアだけではなく、そのルーツである商業演劇以前の時代の作品に広げた方が良いと思うがいかがか。

生涯学習文化財課長

- 3 確認させていただき、後ほど回答させていただく。

文化振興課長

- 1 教育者としての下總皖一という意味では、演奏家として活躍された「音楽文化発信部門」と、地道に音楽教育などに従事された「音楽文化貢献部門」という2つの部門の賞を設けている。マリンバ奏者の高橋美智子氏は、武蔵野音大で40年間教鞭をとられ音楽教育に従事した功績を称えて今年度「音楽文化貢献部門」での受賞が決定した。
- 2 さいたまグラフの件については、早速調べさせていただく。
- 4 故蜷川幸雄氏が芸術劇場に残していただいた作品のレガシーは、委員お話しのとおり、商業演劇として成功して残されたものである。委員の御指摘については研究させていただきたい。

並木委員

- 1 文化振興基金の歳入は、例年どのようなところから、どのくらいの金額が入るのか伺う。
- 2 資金助成事業の交付決定の件数が県全体としては少ないと思うが、応募件数と選定基準について伺う。
- 3 国・県指定の文化財を適切に保管して、次の世代に継承するということであるが、地元でも一部の地域しか文化財が知られてないという状況がある中で、県はどのように発信していくのか。また、次の時代に継承するためには、今の時代に知られていないと次の時代に発信できない。どのように継承していくのか伺う。

文化振興課長

- 1 例年、運用益が約200万円、県民の方々の寄付が700万円から800万円程度あり、合計約1,000万円の歳入がある。
- 2 今年度は、活動成果サポートに28件の応募があり、25件交付決定している。また、伝統芸能サポートは24件の応募に対して18件、次世代未来サポートは19件の応募に対して12件の交付決定をしている。なお、交付決定に当たっては、外部委員の方々に事業の趣旨や緊急性など個別の事情などを勘案しながら予算の範囲内で決定いただいている。助成額については、オリンピックやラグビーに向けて、県民の皆様の文化の熱も高まってくるということもあり、来年は基金を活用して文化プログラムに挑戦する補助金を予算計上しており、この文化振興基金の助成と併せて県民の文化活動を応援したいと考えている。

生涯学習文化財課長

3 委員御指摘のとおり、近年、過疎化や少子化等により、文化財を育み支えてきた地域社会が著しく変化していることから、文化財の継承が大変困難になりつつあると思っている。このような中で、文化財を確実に継承していくためには、文化財行政だけでなく地域社会のあらゆる人々に参画していただき、文化財の保存と活用を図っていくことが必要と考えている。そのため、県としては、市町村が地域の文化財を、指定、未指定に関わらず幅広く捉えて総合的に保存活用するようなマスタープラン、歴史文化基本構想などを策定する際には、積極的に支援して文化財の継承に努めていく。

並木委員

県全体としては文化振興基金が余り知られていないのではないかと。各市町村の文化団体連合会等には、昨年案内があったという話は聞いているが、実際にお金に困っている団体はかなりある。もっと広げてしっかり周知していただきたいと思うがいかがか。

文化振興課長

委員御指摘のとおり、周知の課題に対応するため、昨年、対象となる県内各地の民俗芸能保存団体及び文化団体、合計706団体に直接案内を送り周知に努めているところである。その効果もあり応募の状況は良くなっているが、引き続き周知に努めていく。

荒木委員

- 1 「埼玉 WABI SABI 大祭典」の来場者数の目標値とその結果について伺う。
- 2 「埼玉 WABI SABI 大祭典」自体が、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会及びラグビーワールドカップ2019に向けた文化プログラムであることを知らない人が大勢いると思うが、次年度以降どのように周知していくのか。
- 3 「埼玉 WABI SABI 大祭典」では、和太鼓、三味線ライブ、個人での様々なパフォーマンスを実施しているが、出演者のエントリー基準はどのようなものか。
- 4 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた埼玉県文化プログラムとして、「埼玉 WABI SABI 大祭典」を今年度は秋に開催している。オリンピック等に間に合うように配慮すべきと思うが、来年度以降はいつ実施する予定か。

文化振興課長

- 1 2日間で30,000人の来場者を見込んでいたが目標には達しなかった。開催日の10月21日、22日は大型の台風が接近しており、21日は雨の中実施したが、22日は安全を考慮しやむを得ず中止した。このような結果になってしまったが、また引き続き頑張っていきたい。
- 2 このイベントは、地元の企業の協賛金をいただいております。埼玉の事業でありながら商標登録の関係でラグビーやオリンピックという言葉が直接使用することができない。しかし、今年も御協力いただいた、茶道協会や華道連盟などオール埼玉の組織を持つ15団体の方々には、「埼玉WABI SABI 大祭典」が、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会及びラグビーワールドカップ2019に向けて文化を発信する事業であることを周知している。出演者のSNSやホームページなどでも「埼玉のオリンピック、ラグビーの関係イベントに出ますよ」ということを周知していただいている。今後も、県のPRも含めて様々な媒体でPRをしていきたいと考えている。

- 3 今年は初年度であるため、出演者は、「県の和の文化の魅力を発信する」という観点から、ある程度世界で活躍しているような一流の方や、県内の高校生でも全国大会に出ているような方など、ある程度クオリティの高い方を県民に見ていただきたいと考え、委託業者の紹介も含めて県が選定した。今後は、このイベントを大きくして、様々な方に参加していただきたいと考えており、多様な視点で様々な意見を取り入れたいと考えている。
- 4 このイベントは多くの方々に御協力を頂いていることから、今年度と同様、来年度も秋に開催する方向で協議を進めている。しかしながら、文化プログラムの実施がオリンピック・パラリンピックとずれてしまえば意味がない。2020年は、開催期間に合わせて実施したいと考えている。

荒木委員

開催期間中というのは、東京2020オリンピック競技大会の開催期間中ということか。

文化振興課長

そのとおりである。

柳下委員

- 1 自分自身の記憶でも、小学校の時に群馬フィルハーモニーオーケストラの演奏を聴いたことは今でも印象に残っている。そういう面では、小学校、中学校含めて県内の良い音楽、演奏活動、文化、演劇などに接する機会を増やしていただきたいと思うが、どう考えるか伺う。
- 2 県立芸術総合高校を視察した際に、ピアノが少し古いという声を聞いたが、良い文化芸術を推進していく観点で、楽器などの整備や芸術総合高校の活動をどうしていくのか、今後の方針を伺う。
- 3 蜷川レガシーについては、彩の国さいたま芸術劇場を適切に整備し、芸術監督などの要望を聴きながら発展させていきたいと思うがいかがか。

義務教育指導課長

- 1 委員御指摘のとおり、良い音楽を小さい頃から取り入れる、聴くという経験は非常に重要なことだと考えている。例えば小学校では地域の民謡に親しむことや、日本の音階を使った音楽づくりなどを行っており、中学校でも和楽器の演奏を取り入れるなど、各学校において実情に応じてそうしたことを実施している。また、音楽の授業だけでなく、例えば古典芸能に関する芸術鑑賞会や、クラブ活動における太鼓の演奏など、音楽の授業に加えて、様々な場面で良い音楽を聴き、自ら演奏する機会を作ることを、今後も研究会などで良い事例を紹介しながら、教員が学ぶ機会を作り、広めていきたいと考えている。

高校教育指導課長

- 2 県立芸術総合高校は平成12年度に開校し、芸術の専門学科を置く全国初のタイプの学校ということで大変注目をされたところである。現在も美術科、音楽科、映像芸術科、舞台芸術科と4つの学科を設置して、生徒が芸術活動に励んでいる。本県の芸術教育をけん引する学校として、今後もしっかりと活動を続けていきたいと考えている。備品等については、高い専門性ということから、ピアノに限らず楽器や様々な備品の中には、

非常に高額なものもある。それぞれの状況を学校からつぶさに聴取して、財政状況が厳しい中ではあるが、必要に応じて改善していきたいと考えている。

文化振興課長

3 シェイクスピア・シリーズは大きな遺産であり、大事に育てていきたいと考えているが、それ以上に、芸術劇場の職員を企画や制作を自らできるように鍛え、新たなものを作り続けていけるようにしていただいたことや、シェイクスピア・シリーズを引き継いだ吉田鋼太郎氏のような方との人脈などが、故蜷川幸雄氏の遺産だと考えている。残されたものを大事にし、新たなものに取り組みめる力も大切にして、新たな価値を付けて育てていきたいと考えている。

柳下委員

- 1 蜷川レガシーについては、財産として職員を鍛えていただいたという点で、様々な文化施設を訪問した際に、芸術劇場の職員がすばらしいという話を聞く。是非この点も強めていただきたいと思う。(意見)
- 2 芸術監督が吉田鋼太郎氏に交代して、何か変化があったか伺う。

文化振興課長

2 吉田鋼太郎氏は、残されたものをまずは継承していくと発言されており、県が発行している「アーツ・シアター通信」などでも語られている。また、現場は和気あいあいとしながらも厳しい指導をいただいたと聞いており、非常に良いスタートを切ることができたと考えている。

生涯学習文化財課長

先ほど野本委員から御質問のあった童歌についてお答えさせていただく。昭和54年から55年頃に、「埼玉の民謡緊急調査」という調査を実施し、「埼玉の民謡」という報告書を刊行した。その中には、様々な歌が収集されており、子供歌として童歌なども収集されている。なお、この報告書は図書館で閲覧できる状態となっている。